

花きの現状について

令和 7 年 6 月

農林水産省



花っていいよね。キャンペーン

目 次

1. はじめに	1	6. 花きの消費	34
(1) 花きの定義	1	(1) 花きの消費の現状	34
(2) 花きの特性	2	(2) 花きの需要拡大への取組	35
2. 花きの生産	4	(3) 花きの需要創出に向けた取組	36
(1) 我が国の農業における花きの生産の位置づけ	4	(4) 花きの効用	39
(2) 花きの生産の現状	5	7. 価格動向について	42
(3) 花きの生産における課題	14	(1) 切り花の市場取扱数量・金額の動向	42
3. 花きの流通	16		
(1) 花きの流通の現状	16		
(2) 物流の2024年問題	17		
4. 花きの輸入・輸出	20		
(1) 花きの輸入	20		
(2) 花きの輸出	23		
5. 国際園芸博覧会	31		
(1) 花きの国際的評価	31		
(2) 2027年国際園芸博覧会の開催	32		
(3) 2027年国際園芸博覧会における「花・出展」 の出展状況	33		

【参考資料】

1 花きの振興に関する法律	44
2 花き関係予算	47
3 次世代施設園芸の取組	50
4 スマート農業実証プロジェクト	53
5 都道府県別花き産出額	55

1. はじめに

(1) 花きの定義

○ 「花きの振興に関する法律」の第二条において、「花き」とは、観賞の用に供される植物をいうと定義されている。具体的には、切り花類、鉢ものの類、花木類、球根類、花壇用苗ものの類、芝類、地被植物類をいう。

【花きの振興に関する法律】 （平成26年法律第102号）（抜粋）
（定義）
第二条 この法律において「花き」とは、観賞の用に供される植物をいう。
2 （略）

花き		※食用に供されるものを除く
【切り花類】	切り花（キク、バラ、カーネーション等）、切り葉（ヤシの葉等）、切り枝（サクラ等）	
【鉢ものの類】	シクラメン、ラン、観葉植物、盆栽等	
【花木類】	ツツジ等庭木に使われる木本性植物で緑化木を含む（鉢ものとして生産されているものを除く）	
【球根類】	チューリップ、ユリ等	
【花壇用苗ものの類】	パンジー、ペチュニア等	
【芝類】	造園用等養成されているもの	
【地被植物類】	ササ、ツル類等地面や壁面の被覆に供するもの	

「山野草」や「林木」について明確な規定はないが、観賞用に仕立てをして栽培されているものは花きとして取り扱う

【山野草】

野外に自生する草本、低木及び小低木の一部等



【林木】

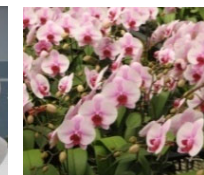
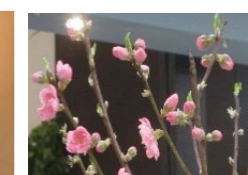
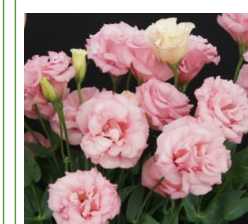
スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ等



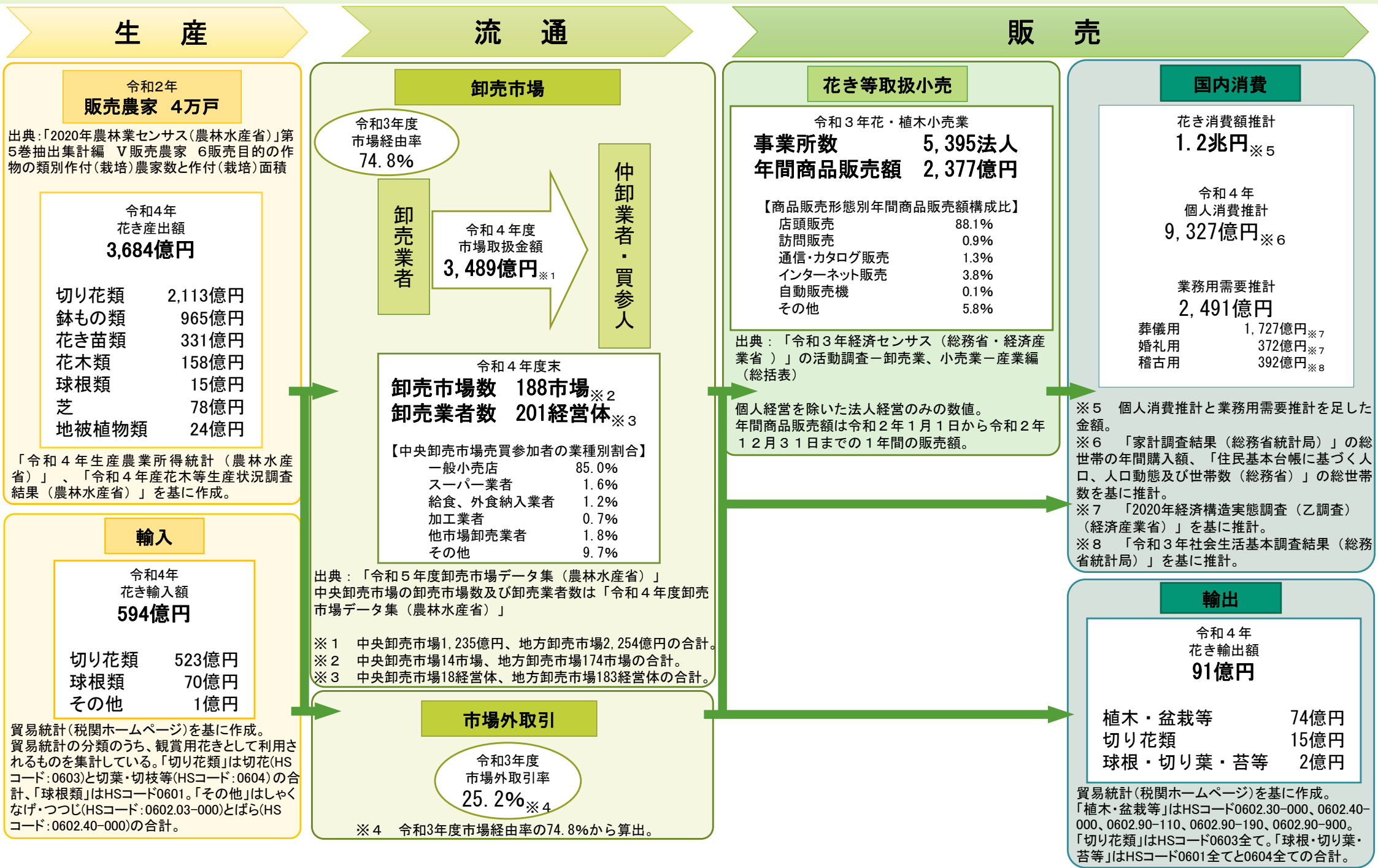
1. はじめに

(2) 花きの特性

- 食生活の範囲の中で選択される野菜・果物と異なり、花きは冠婚葬祭、贈答用、装飾等、様々な使われ方をしている。
- 使われる用途・場面によって、種類・品種・色等が細かく異なる等、花きは極めて嗜好性が高い品目である。
- 消費者等のニーズ、品目の特徴に応じた生産から流通・販売までの一体的な対策を講じていくことが必要。

キ ク 産出額1位 585億円 装飾 ブライダル 仏花 葬儀  マム (ピンク・緑) 小菊(黄等) 輪ギク(白)	洋ラン(鉢) 産出額2位 347億円 お祝い  コチョウラン(白、ピンク)	切り枝 産出額3位 241億円 いけばな・装飾 	ユ リ 産出額4位 191億円 装飾 葬儀  オリエンタルユリ (ピンク、白等) 鉄砲ユリ(白)
観葉植物 産出額5位 179億円 インテリア 	バ ラ 産出額6位 170億円 ブライダル・贈答  白・赤・黄・ピンク等	庭園樹苗木 産出額7位 139億円 まちづくり 	トルコギキョウ 産出額8位 133億円 ブライダル・葬儀・装飾  白・ピンク・紫等

<参考>花きの生産・流通・販売の主な流れ



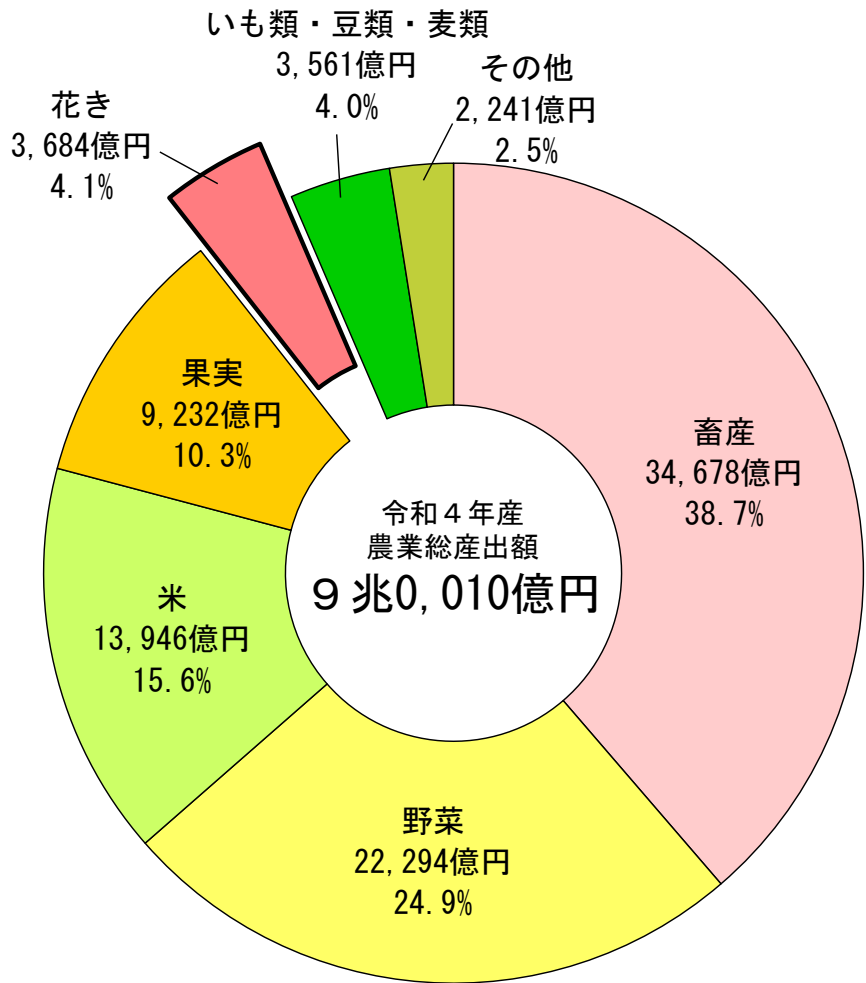
※調査時期、標本等の異なる調査結果や推計値が含まれる。

2. 花きの生産

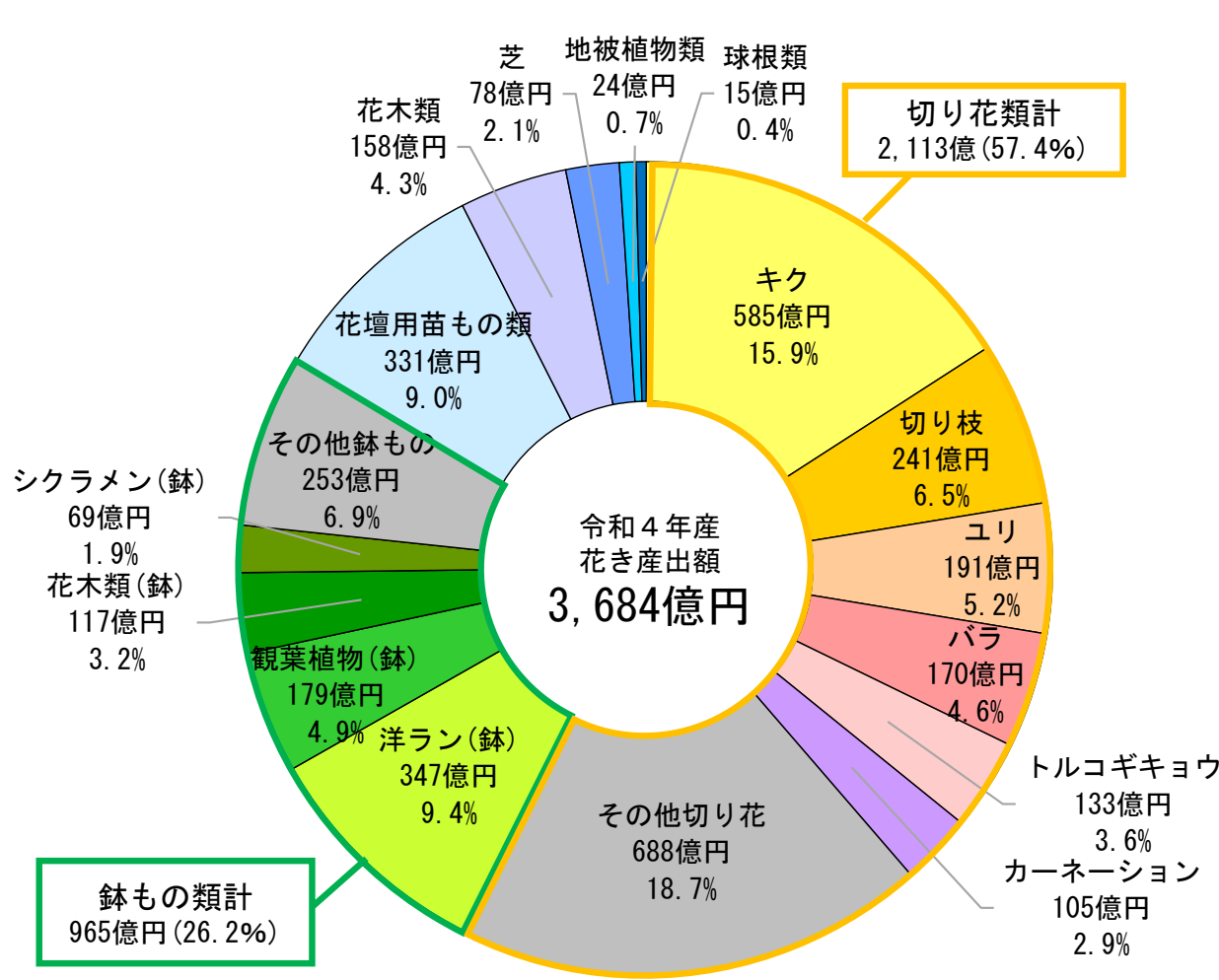
(1) 我が国の農業における花きの生産の位置づけ(生産額ベース)

- 令和4年の花きの産出額は3,684億円で、農業総産出額の約4%を占めている。
- 花きにおける産出額の内訳は、切り花類が約6割、次いで鉢ものの類が約3割、花壇用苗ものの類が約1割。

＜我が国の農業総産出額(令和4年)＞



＜花きの産出額の内訳(令和4年)＞



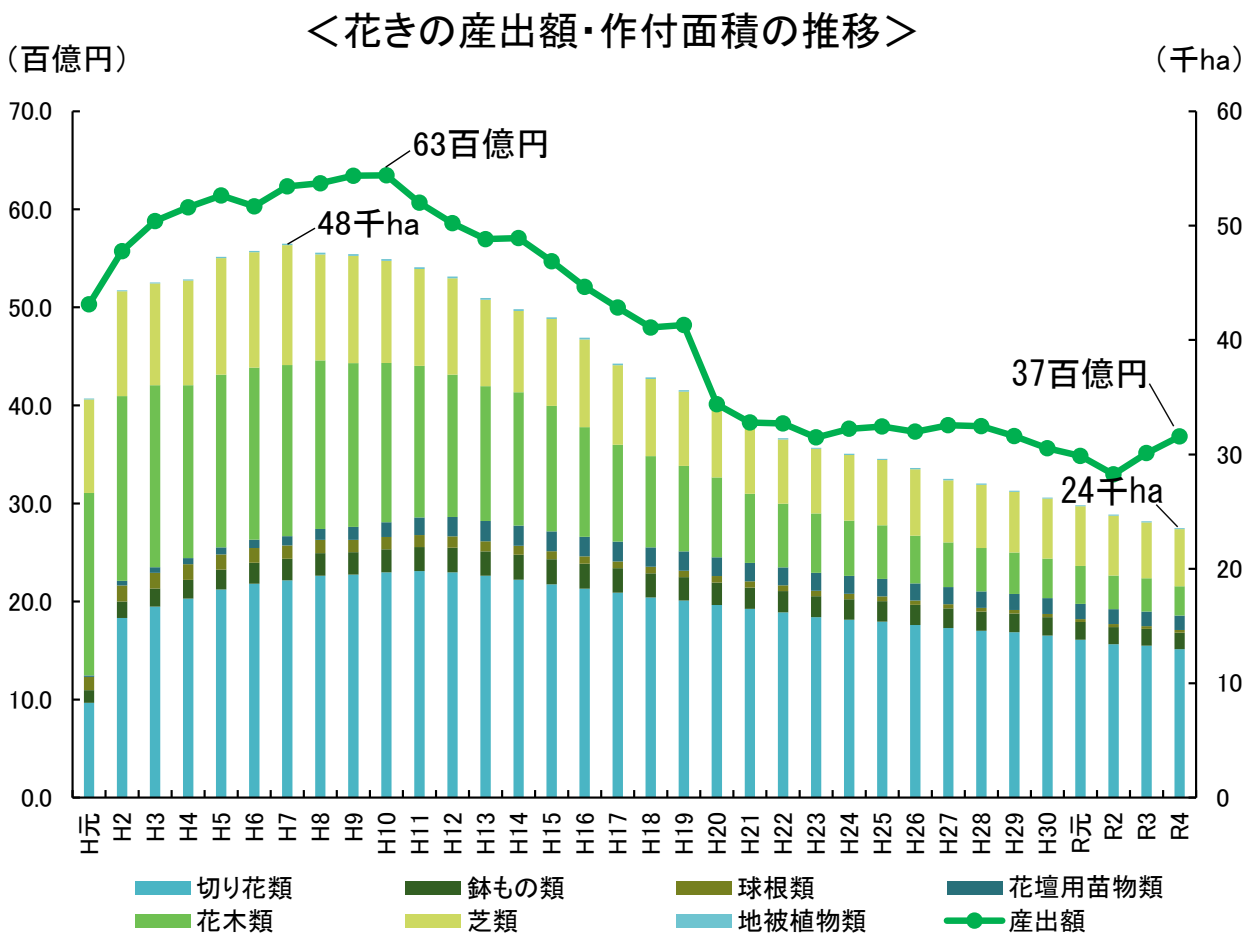
「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」を基に作成。
花きの産出額は、「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」の花き産出額に、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」の産出額(出荷額)を追加した数値。
農業総産出額は「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」の農業総産出額の値であり、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」が含まれていない値のため、円グラフ中の各品目産出額を足した数値とは一致しない。

「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」を基に作成。

2. 花きの生産

(2) 花き生産の現状(産出額・作付面積)

- 花きの作付面積は平成7年の48千ha、産出額は平成10年の63百億円をピークに減少傾向。
- 花きの主要産地は、愛知県、千葉県、福岡県など。愛知県にあっては、花きは県内の農業産出額全体の約2割を占める。



＜花きの県別産出額(令和4年)＞

単位: 億円

順位	県名	産出額 (全国シェア)	県内の農業産出額 に占める割合
1	愛知	594 (16%)	19%
2	千葉	246 (7%)	7%
3	福岡	227 (6%)	11%
4	静岡	175 (5%)	8%
5	茨城	172 (5%)	4%

「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」をもとに作成。

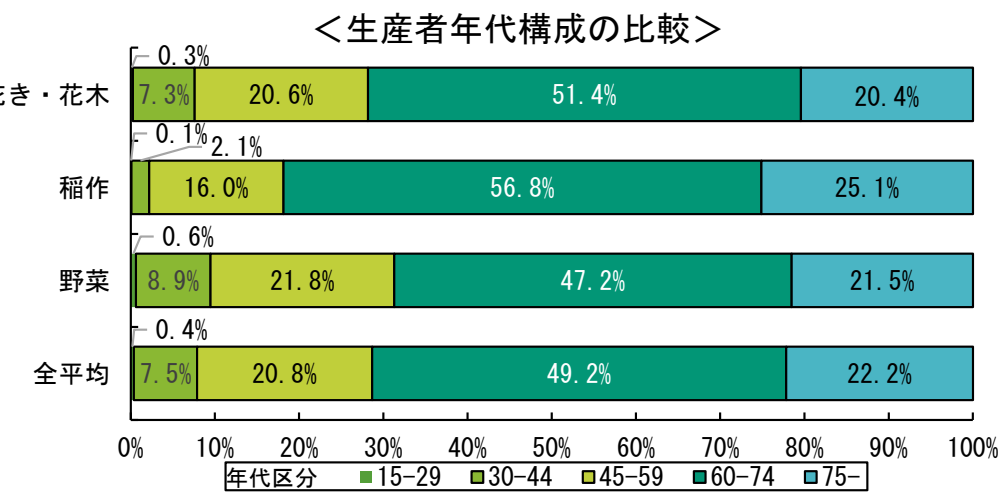
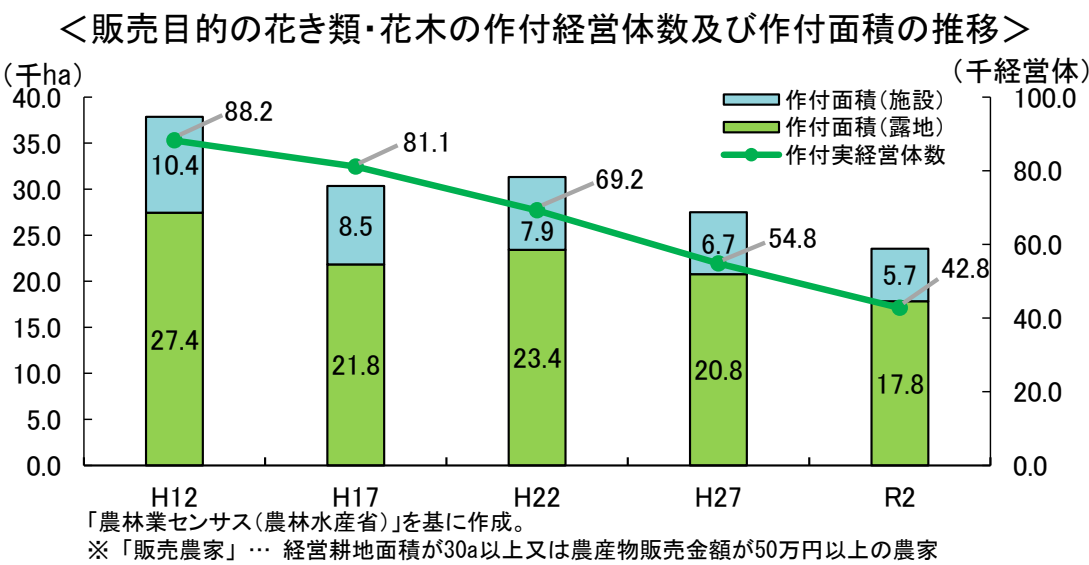
「令和4年生産農業所得統計(農林水産省)」、「令和4年産花木等生産状況調査結果(農林水産省)」、「令和4年産花き生産出荷統計(農林水産省)」を基に作成。

注: 花木類の産出額については、平成19年までは生産額、平成20年以降は出荷額である。
作付面積は、平成5年までは「花き類の生産状況等調査」の切り花類、球根類、鉢もの類及び花壇用苗もの類の露地、施設面積の合計。
平成6年以降は「花き生産出荷統計」の切り花類、球根類、鉢もの類、花壇用苗もの類と「花木等生産状況調査」の花木類、芝、地被植物類の合計。
なお、「花木等生産状況調査」については、令和元年、令和2年、令和4年は主産県調査のため、花木類、芝、地被植物類の全国値は推計値である。

2. 花きの生産

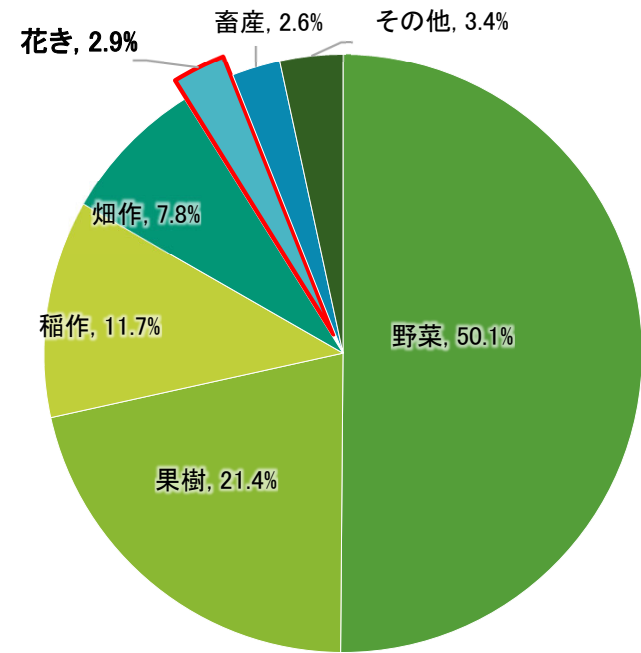
(2) 花きの生産の現状(生産者構成)

- 花きの販売農家は減少傾向で推移し、令和2年における販売目的の農業経営体数は42.8千戸。
- 花きの生産者年代構成は、45歳未満が8%、45歳から59歳までが21%、60歳以上が72%となっている。



「2020年農林業センサス(農林水産省)」第3巻 農林業経営体調査報告書 農業経営主年齢別統計
(3) 農業経営組織別経営体数 単一経営経営体 (主位部門の販売金額が8割以上の経営体)
※全平均は、全営農類型の平均をとったもの

＜新規参入者の部門別割合(令和5年)＞



＜新規参入者の部門別割合の推移＞ (人)

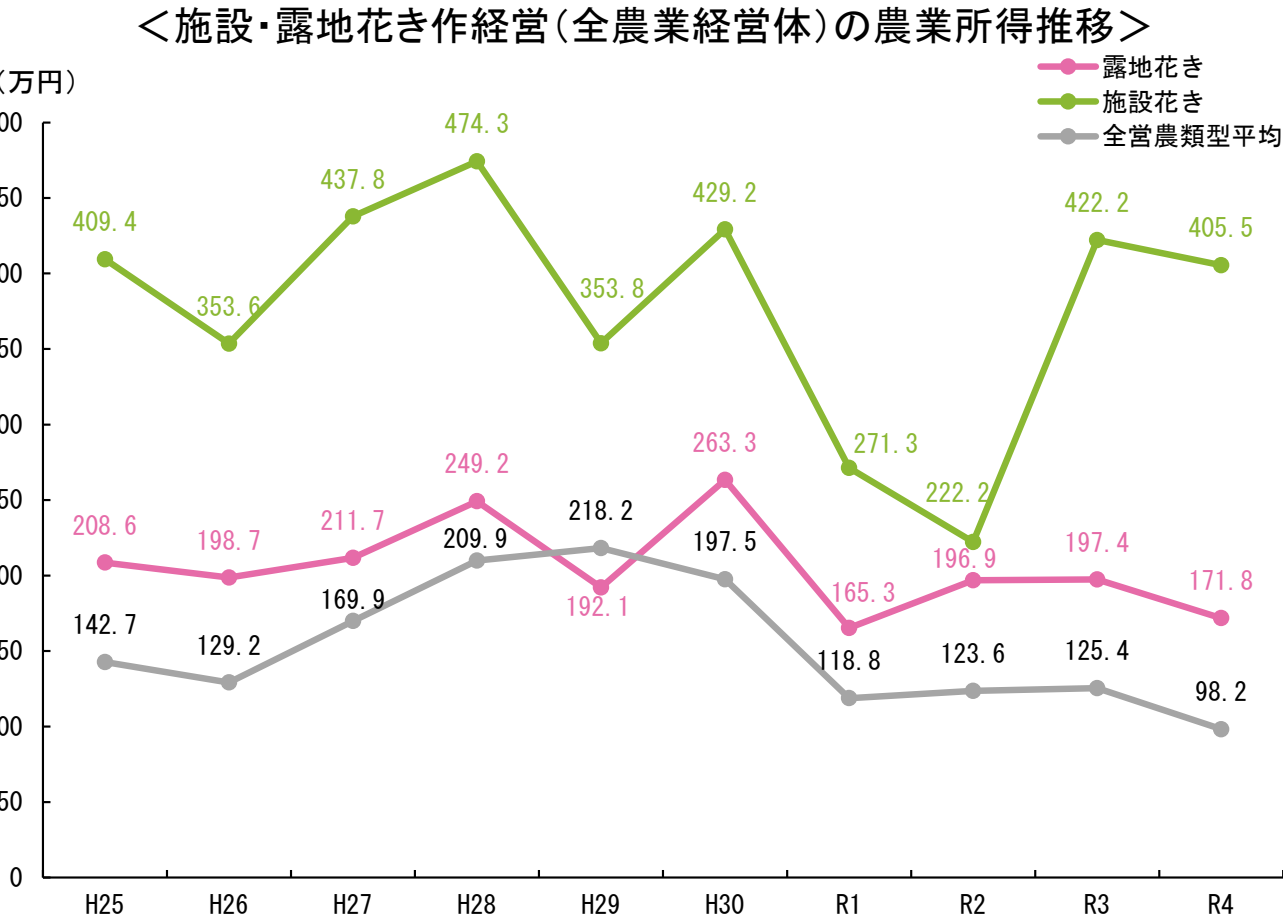
	R1	R2	R3	R4	R5
計	3,200	3,580	3,830	3,870	3,830
野菜	1,600	1,810	1,960	2,010	1,920
果樹	620	660	790	700	820
稲作	420	490	490	530	450
畑作	220	190	210	220	300
花き	100	120	150	130	110
畜産	140	200	120	130	100
その他	100	110	100	160	130

「令和5年新規就農者調査結果(農林水産省)」を基に作成。
「野菜」は「露地野菜作」と「施設野菜作」の合計。「畜産」は「酪農」「肉用牛」「養豚」「養鶏」の合計。
「その他」は「その他の作物」と「その他」の合計。

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(農業所得)

○ 花き作経営の農業所得は品目や経営面積等によって大きく異なるが、令和4年度の平均農業所得は、施設花き作経営では405.5万円、露地花き作経営では171.8万円であり、全営農類型の平均98.2万円と比較して高い傾向にある。



「農業経営統計調査 令和4年 営農類型別経営統計(農林水産省)」を基に作成。
※平成25年(2013年)から平成30年(2018年)までの数値は、「農業経営統計調査 経営形態別経営統計(個別経営)」及び「農業経営統計調査 経営形態別経営統計(組織法人経営)」の集計結果から推計した数値。
※令和元年(2019年)調査から調査票を税務申告資料から転記する形式に変更。平成30年(2018年)以前は農業経営費に市場手数料、交際費等が含まれていない。
※粗収益、農業経営費及び農業所得には、花き以外の作物も含む。
※花き作経営:花きの販売収入が営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営。
施設花き作経営:花き作経営のうち、露地花きの販売収入より施設花きの販売収入が多い経営。
露地花き作経営:花き作経営のうち、露地花きの販売収入が施設花きの販売収入以上である経営。

(参考 施設花き作経営の経営収支) (万円・a)

	R1	R2	R3	R4	R4/R3 増減率
農業粗収益	1,807.9	1,777.8	2,211.3	2,297.5	+3.9%
作物収入	1,787.6	1,703.9	2,002.8	2,216.7	+10.7%
共済・補助金等受取金	16.8	67.4	196.0	63.9	▲67.4%
農業経営費	1,536.6	1,555.6	1,789.1	1,892.0	+5.8%
種苗費	142.8	156.1	201.4	226.2	+12.3%
肥料費	55.3	49.8	60.5	81.3	+34.4%
動力光熱費	253.0	220.8	230.2	307.4	+33.5%
荷造運賃手数料	221.5	227.4	261.8	287.2	+9.7%
雇人費	256.6	257.0	309.5	282.2	▲8.8%
農業所得	271.3	222.2	422.2	405.5	▲4.0%
施設花き作の作付け延べ面積	40.4	40.9	43.0	44.8	+4.3%

(参考 露地花き作経営の経営収支) (万円・a)

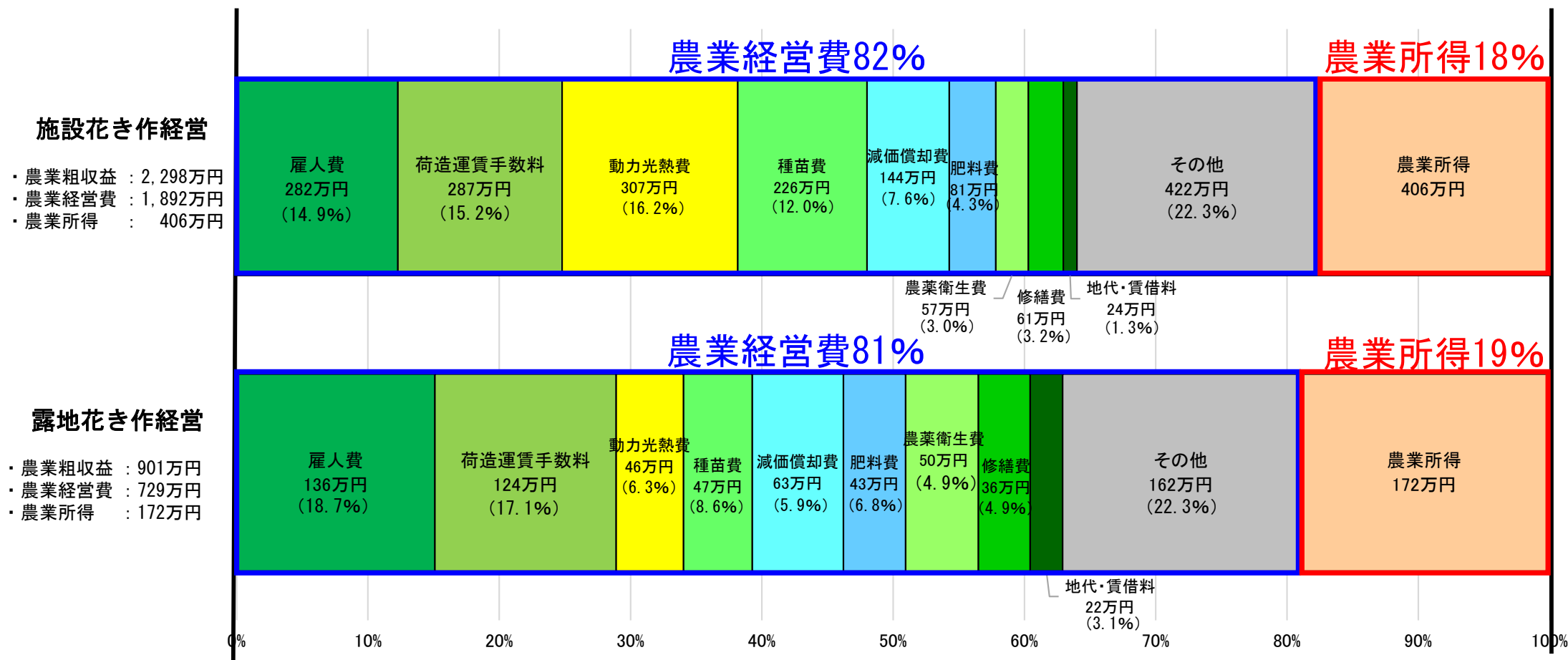
	R1	R2	R3	R4	R4/R3 増減率
農業粗収益	781.3	849.3	884.8	900.6	+1.8%
作物収入	747.1	797.4	795.6	841.2	+5.7%
共済・補助金等受取金	20.1	48.7	74.0	45.0	▲39.2%
農業経営費	616.0	652.4	687.4	728.8	+6.0%
種苗費	47.9	55.5	53.2	47.2	▲11.3%
農薬衛生費	47.1	48.3	52.2	49.9	▲4.4%
動力光熱費	38.2	36.2	39.1	46.2	+18.2%
荷造運賃手数料	98.6	105.3	116.4	124.3	+6.8%
雇人費	106.9	114.2	124.7	136.0	+9.1%
農業所得	165.3	196.9	197.4	171.8	▲13.0%
露地花き作の作付け延べ面積	69.3	68.4	69.0	73.4	+6.4%

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(農業所得)

- 花き作経営の粗収益に占める所得の割合は、施設花き作経営と露地花き作経営でほぼ同じ。
- 施設花き作経営では、露地花き作経営よりも農業経営費に占める動力光熱費の割合が高くなっている。

< 農業粗収益の内訳(令和4年) >



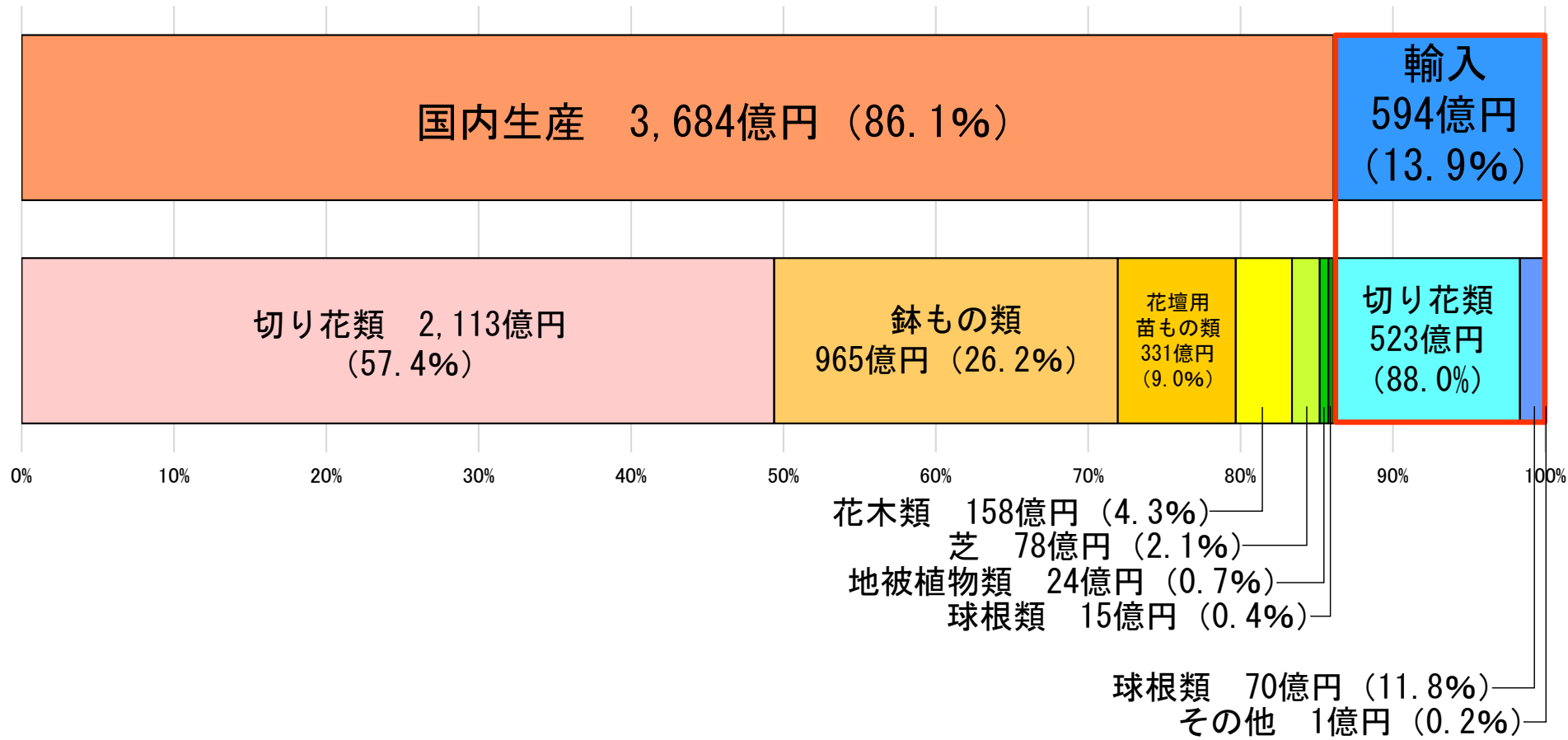
「農業経営統計調査 令和4年 営農類型別経営統計(農林水産省)」を基に作成。
※粗収益、農業経営費及び農業所得には、花き以外の作物も含む。
※花き作経営:花きの販売収入が営農類型の農業生産物販売収入と比べて最も多い経営。
施設花き作経営:花き作経営のうち、露地花きの販売収入より施設花きの販売収入が多い経営。
露地花き作経営:花き作経営のうち、露地花きの販売収入が施設花きの販売収入以上である経営。

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(需給構造(金額ベース))

- 花きの国内流通のうち、国内生産（金額ベース）は約 9 割で、輸入は約 1 割。
- 国内生産のうち約 6 割は切り花類で、鉢ものの類、花壇用苗ものの類が続く。
- 輸入のうち約 9 割は切り花類が占めている。

<花きの需給構造(令和4年)>



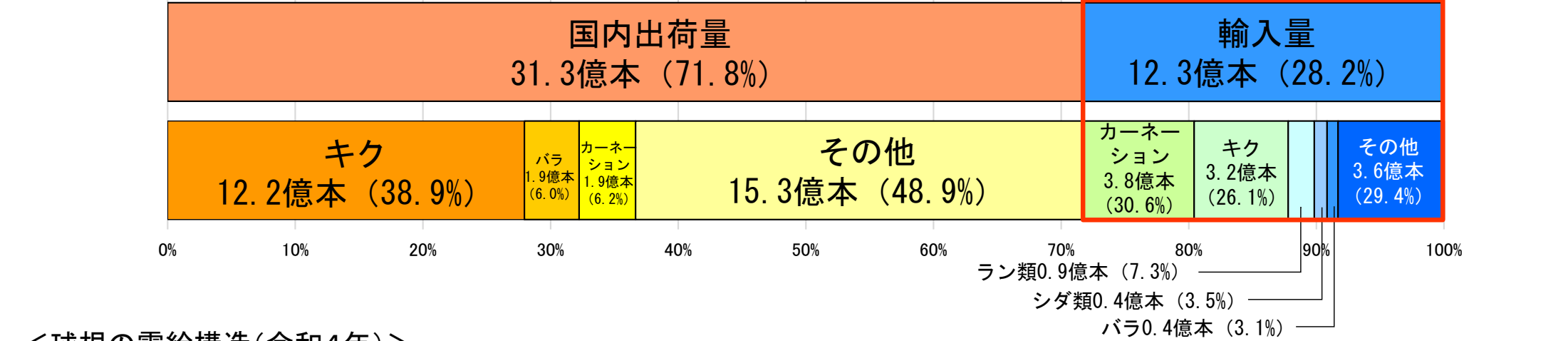
※令和4年生産農業所得統計（農林水産省）、令和4年産花木等生産状況調査結果（農林水産省）、貿易統計（税関ホームページ）を基に作成。
※輸入は、貿易統計の分類のうち、観賞用花きとして利用されるものを集計している。
「切り花類」は切花(HSコード：0603全て)と切葉・切枝等(HSコード：0604全て)の合計（生産農業所得統計において、切り葉・切り枝は切り花類に含まれるため。）。
「球根類」はHSコード0601全て。「その他」はしゃくなげ・つつじ(HSコード：0602.03-000)とばら(HSコード：0602.40-000)の合計。

2. 花きの生産

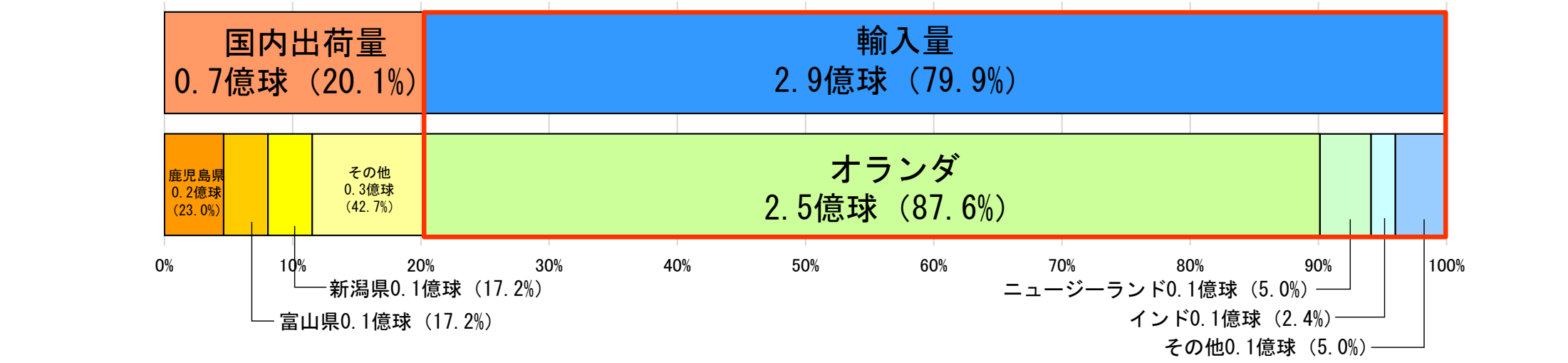
(2) 花きの生産の現状(切り花及び球根の需給構造(数量ベース))

- 切り花の国内流通のうち輸入割合(数量ベース)は28%となっており、特にカーネーション、キク、ラン類の輸入割合が高い。輸入の主な相手国はコロンビア、ベトナム、マレーシア、中国等。
- 球根の輸入割合(数量ベース)は80%で、大半はオランダからの輸入となっている。

<切り花の需給構造(令和4年)>



<球根の需給構造(令和4年)>



「令和4年産花き生産出荷統計(農林水産省)」、「植物検疫統計 統計レポート 11. 輸入植物品目別・国別検査表」を基に作成。
※球根については「花き生産出荷統計」において品目の内訳がないため、産地の内訳のグラフとしている。

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(技術・品種開発)

- 花きの育種は、公設試などの研究機関のほか、生産者などの個人で取り組まれている状況。
- 多様な育種素材を保有する民間会社・個人育種家と、耐病性や日持ちの良さ等の優れた遺伝資源を保有する研究機関等の連携により、新品種の育成を加速化していく必要。

萎凋細菌病抵抗性・耐暑性を有するカーネーション新品種

〈ひめかれん〉

- ・近年の夏期の高温により、萎凋細菌病被害の拡大および切り花品質の低下が問題となっている。
- ・農研機構と長崎県は、カーネーション萎凋細菌病に強い抵抗性を持つスプレーカーネーション品種を共同開発。(「花恋ルージュ」※と同等の強い抵抗性を有する。)
- ・2023年1月24日品種登録。2028年品種登録・市販化予定。

※萎凋細菌病の平均罹患率は、罹病性品種「フランセスコ」87.0%、「ノラ」97.1%、「恋花ルージュ」7.1%。



萎凋細菌病被害の様子



ひめかれん

資料:
・「みどりの技術食料システム戦略」技術カタログ(Ver.4.0)
・農研機構 品種詳細「ひめかれん」

日持ち性が優れるダリア新品種 〈エターニティシリーズ〉

- ・ダリアは日持ちが短い(常温(23℃)で1週間の日持ち保証は困難(2011年))という課題があったが、農研機構は2020年に日持ち性に優れるエターニティピーチ、エターニティロマンス、エターニティルージュを開発(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.4~2.1倍)。
- ・2023年には美しいグラデーション花色のエターニティピーチ(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.2~1.6倍)、エチレン低感受性で流通適性に優れるエターニティシャイン(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.5~2.9倍)を開発。



エターニティピーチ



エターニティシャイン

資料:
・農研機構 野菜花き研究部門2020年の成果
・農研機構 2023年野菜花き研究部門 プレスリリース

夏の暑さに強い スプレーギク新品種

〈スプレー愛知夏2号、スプレー愛知夏3号〉

- ・近年の夏季の高温により、夏の暑さに強い夏秋系品種でも開花遅延、芽焼け、葉焼けなどの障害の発生が問題となっていた。
- ・愛知県は高温でも開花遅延や障害が少なく、花の色と形が美しいギクの新品種を開発。
- ・「スプレー愛知夏2号」は高温期(7~9月)において美しいピンク色や花形を長く保つ。「スプレー愛知3号」は葉焼けや芽焼け等の障害が発生しにくく、純白の美しい花を咲かせる。



「スプレー愛知夏2号」



「スプレー愛知夏3号」

資料:
・「みどりの技術食料システム戦略」技術カタログ(Ver.4.0)

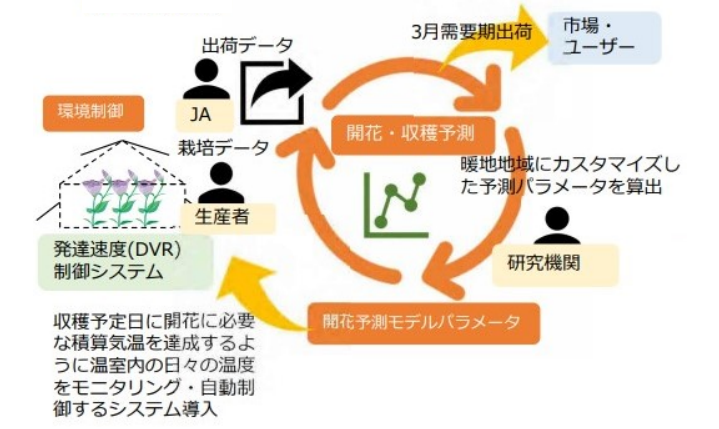
2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(技術・品種開発)

- 花きの生産では、生産規模の縮小、高温等による出荷の前進や遅延、病虫害被害の拡大、生産資材・電気代等の高騰等により、需要期の品不足、農家収益の悪化、価格の上昇といった課題がある。
- 需要期に合わせた生産・出荷、病虫害被害の軽減、低コスト化等による生産性向上等の研究開発を進めるとともに、生産現場における新たな技術導入を推進。

需要期に合わせた生産・出荷技術 〈DVR制御による計画生産〉

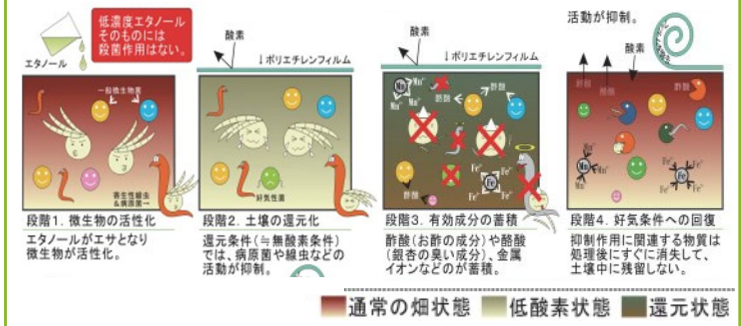
- ・ 積算気温に基づいた生育予測と発達速度の能動的制御による計画生産技術。
- ・ 冬季の気象の影響を受けやすく開花時期の年次変動が大きいトルコギキョウ冬春出荷において、高単価となる3月需要期の計画出荷が可能となった。



資料: 令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進 花き全国技術実証2021コンソーシアム R3報告パンフレット

効果的な防除技術 〈低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒〉

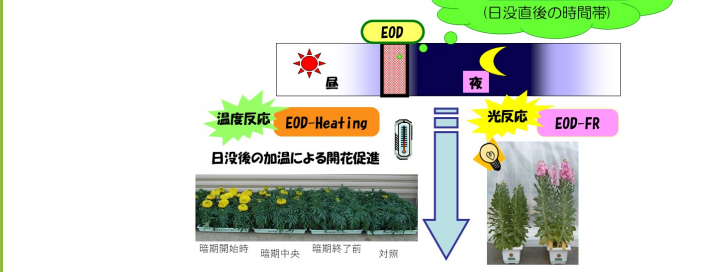
- ・ 土壌へのかん水処理と太陽熱を組み合わせた土壌還元消毒技術。
- ・ 1%以下に薄めた低濃度エタノール水溶液を土壌にかん水処理し、農業用透明ポリフィルムで覆って地温を上昇させることで土壌微生物の活動が活発になり、土壌中の酸素を消費することで土壌が還元状態になる。この状態が2から3週間程度維持されると、土壌中の生物相が変化し、得に土壌病原菌やセンチュウの密度が低下する。



資料: 農研機構「低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒 実施マニュアル」

省エネルギー生産技術 〈日没後の加温や光照射による花きの省エネルギー生産技術〉

- ・ 温度や光に対する感受性の高い日没後の時間帯(End of Day:EOD)に着目し、効率的に開花や草丈伸長を促進し栽培技術。
- ・ 施設内の設定温度を一時的に高めると
- ・ 夜間を低温管理としても生育・開花が確保され栽培期間中の燃料使用量を削減可能。
- ・ 遠赤色光(FR光:波長730nm前後)を照射すると、草丈伸長や開花の促進により栽培期間が短縮され、切り花の早期出荷が可能。



資料:「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(Ver.3.0)

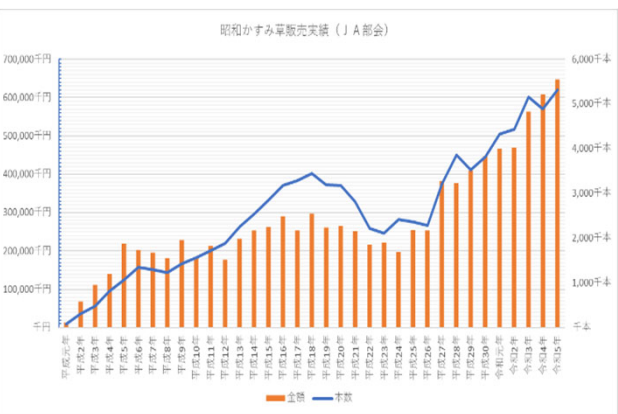
<参考>花き生産の優良事例

令和6年度 農林水産祭 天皇杯

JA会津よつば 昭和かすみ草部会(福島県)

～ 技術と設備の改良を重ね、夏秋期日本一の産地に成長 ～

- 冷涼な気候を活かした長期出荷(6～11月)に加え、特別豪雪地帯という不利な条件を長所に変え、集出荷貯蔵施設(雪室)を整備。盛夏にも高品質なかすみ草の安定供給が可能となり、販売額が1億円(H3年)→6億円(R4年)に。さらに、染色加工等により新たな需要を喚起することに成功。
- JA部会、関係機関・団体、先に移住した既就農者が一体となり、新規就農者を多方面から支援。これまで25組36名が就農し、直近5年間の新規就農者定着率100%を実現。



販売金額、生産本数の推移



雪室からの冷気を利用した貯蔵庫

令和6年度 農林水産祭 内閣総理大臣賞

山田 裕也 氏(愛知県)

～ データに基づく経営改善で経営規模を2倍に拡大 ～

- 施設利用率の向上や統合環境制御装置などのスマート農業技術等の導入により、作付回転数は3.0作/年→4.5作/年に、単収は約2倍に向上。
- 選花機や自走式防除機等の省力化機械の導入等により、労働時間が40%削減。さらに、客観的能力評価を時給に反映することによるパートタイマーの意欲向上等で、労働生産性は就農時と比べ2.3倍に、県策定のスプレーギク経営体育成モデルより1.5倍高い2,253円/hを実現。



統合環境制御装置



微粒ミスト装置



選花機



自走式防除機